

ベネズエラの最新動向(8月1日~8月31日)

I. 政治・経済

1. マドゥーロ大統領、内閣改造を実施＝ラミレス氏を経済担当副大統領から解任

- マドゥーロ大統領は9月2日、内閣改造を実施¹。今回の内閣改造では、これまで経済担当副大統領、PDVSA 総裁、エネルギー・鉱業大臣を兼任していたラミレス氏が当該ポストから解任され、外務大臣に就任²。経済担当副大統領の後任にはトレス財務大臣が指名され、今後は経済担当副大統領と財務大臣を兼任するトレス氏が経済政策を主導していく見通し。
- アナリストは、ラミレス氏が経済担当副大統領から解任された理由として、ラミレス氏が推進していた経済調整政策³に反対する政権内派閥(急進左派勢力や軍部派閥)からの圧力が強まったため、これらの派閥との対立を回避する狙いがあったと指摘している。
- トレス氏は、ラミレス氏と同様に実利主義派として知られる一方で、軍部出身ということもあり軍部派閥との繋がりが強く、政権内派閥のパワーバランスを保つことを目的として経済担当副大統領に指名されたとみられている。アナリストは、今後トレス氏が大胆な経済調整政策を導入する可能性は低いとした上で、中長期的に段階的な通貨切り下げが実施される可能性が高いと指摘。また、短期的には経済状況の悪化に伴い、政局が再び不安定になる可能性があるとの指摘している。
- PDVSA 総裁にはデルピノ副総裁(開発・生産担当)が昇格。エネルギー・鉱業大臣には、PDVSA の技術者として勤務してきたアスドゥルバル・チャベス氏(故チャベス前大統領の親戚にあたる人物)が就任した。デルピノ氏は、PDVSA の子会社 CVP⁴の総裁も兼任する実利的な人物で、J/V パートナーとの仲介役としての役割を果しており、海外投資家にとっては歓迎すべき人物とされる⁵。他方、チャベス氏のエネルギー・セクターにおける影響力は大きなものではなく、デルピノ氏をサポートする役割と位置付けられている模様。
- アナリストは、ラミレス氏が PDVSA とエネルギー・鉱業大臣を解任されたことについて、マドゥーロ大統領がエネルギー・セクターでの大統領権限を強化することが狙いと指摘しており、今後マドゥーロ大統領がエネルギー・セクターに関する方針に影響を与える可能性もある。

¹ マドゥーロ大統領は8月18日に、行き過ぎた官僚制度や汚職といった政治問題を廃絶するために中央省庁の再編が必要と説明した上で、各大臣に対して辞任することを要請し、各大臣はこの要請を受け入れていた。

² これまで外務大臣を務めてきたハウア氏は、地域的社会主义開発担当副大統領及び、地方自治体・社会運動大臣に就任した。

³ ラミレス氏は、3つの並行為替レート(CENCOEX、SICAD-1、SICAD-2)を統一することによる通貨切り下げ、政府による為替管理や価格統制の緩和、ガソリン価格引き上げといった経済調整政策を推進していた。

⁴ CVP(Corporación Venezolana del Petróleo)は、PDVSAのビジネス拡大を目的とする子会社で、外国企業とのJ/Vを仲介するという重要な役割を担っている。

⁵ アナリストは、デルピノ氏が原油生産量を拡大するためにはJ/Vとの協力強化が不可欠との認識を示していることから、エネルギー・セクターにとってはポジティブ材料との見解を示すも、政治的に影響力がある人物ではないため、政局が不安定となった場合の問題に対応できない可能性があると指摘している。

II. 外交

1. ベネズエラ政府、コロンビアへの密輸を防ぐために、コロンビアとの国境を夜間閉鎖

- ベネズエラ政府は 8 月 9 日、コロンビアとの国境を夜間(午後 10 時～午前 5 時)に閉鎖することを決定。ベネズエラ政府の価格統制や補助金によってベネズエラ国内で低価格で販売されている食料品やガソリン⁶のコロンビアへの密輸を防ぐことが目的としている。
- コロンビア・オルギン外務大臣は 8 月 12 日、ベネズエラとの国境を夜間に閉鎖する措置は、ベネズエラ政府が一方的に導入したもので、当該措置が密輸を防ぐ効果はないと批判。また、当該措置はマドゥーロ大統領とサントス大統領が首脳会談で合意した内容と異なるもので⁷、国境付近での密輸問題は両国の軍事協力等によって解決するべきとの見解を示した。
- マドゥーロ大統領は 8 月 29 日、「野党勢力の密輸業者がベネズエラ国内の商品を大量に購入し、コロンビアへ不正流通させていることが、国内の深刻な物資不足に繋がっている」と批判した上で、国内で商品を購入する際に指紋採取システムを導入することを検討していると発表。8 月 26 日には重要物資に指定された 21 品目の輸出を禁止すると発表⁸、密輸取締まり措置を強化しており、コロンビア・サントス政権に対して当該措置に対する理解と協力を求めている。
- また、ベネズエラ軍による国境付近での密輸取締まりも強化されており、ベネズエラ政府は 8 月 30 日までに 232 人の密輸業者を逮捕したと発表。国境の夜間閉鎖措置はしばらくの間、継続する見通し。

III. 石油その他の資源セクター

1. PDVSA、アルジェリアからの軽質原油の輸入を検討へ

- PDVSA は 8 月 27 日、OPEC メンバーであるアルジェリアから軽質原油の輸入を検討していると発表。オリノコ重油地帯で生産される超重質原油を軽質原油で希釈し、希釈原油として輸出することが目的としている。
- 近年、ベネズエラでは希釈剤として使用してきた軽質・中質原油の国内生産が減少しているほか、新たな石油改質プラント(アップグレーダー)の建設が遅れていることもあり⁹、PDVSA はこれまで、超重質原油の希釈剤として重質ナフサを使用し、ナフサの輸入を拡大することで対応してきた¹⁰。但し、市場において高値で取引されるナフサは PDVSA の収益に悪影響を与えているとされており、割安となる軽質原油の輸入の検討を開始した。

⁶ ベネズエラではオクタン価 95 のガソリン価格が 0.097 ボリバル/リットルで、60 リットル購入しても 1 ドル程度しか掛からないが、コロンビアでは 2,275 ペソ (1.14 ドル) /リットルで販売されている。

⁷ ベネズエラ政府は、8 月 1 日にコロンビアのカルタヘナで行われた両国首脳会談で当該措置について合意したと主張している。

⁸ 今回輸出が禁止された品目は、米、砂糖、食用油、牛乳、医薬品、衛生用品等で、食料品や必需品が中心。

⁹ PDVSA は、米石油大手シェブロン、イタリア石油大手 ENI、スペイン石油大手レプソル等との協力で、アップグレーダーの建設事業を進めているが、当該事業は思うように進展していない状況。

¹⁰ オリノコ重油地帯で生産された超重質原油を輸出するためには、希釈もしくは改質の過程を踏む必要がある。

- PDVSA は現在、アルジェリアからの軽質原油の輸入コストについて調査を進めており、アルジェリアとの交渉を既に開始していると説明¹¹。また、自社の新型石油タンカー¹²を使用することにより、輸送コストを十分引き下げられるとコメントしており、アルジェリアからの原油輸入の実現に向けて前向きに準備が進められている模様。原油大国であるベネズエラがこれまでに原油輸入を行ったことはなく、アルジェリアからの原油輸入はベネズエラにとって初めての試みとなる。

以上

¹¹ PDVSA は、アルジェリア国営石油企業 Sonatrach との交渉を進めている。

¹² PDVSA の新型石油タンカーは「VLCC (Very Large Crude Carriers)」と呼ばれるもので、中国やインドといった長距離の原油輸送に使用されている。

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。